



「子どもたちの排泄や着替えの介助に男性職員はいかがか」という声があり、その時は恥ずかしながらそういうものだと思ってしまいました。しかし、総選挙の争点のひとつに「ジェンダー平等」があげられ、男性医師が女の子を診察することや家庭でお父さんがおむつ替えをすることも当たり前だと気づき自分の中の偏見を自覚した次第です。

「ジェンダー平等」や多様性が尊重される時代です。性別というラベルにとらわれずに生きていきたいものです。そのことが子どもの個性を受け入れ、サポートしていく子育てにつながるのだと思います。

園長 杉浦伸枝



- 4日(木) 保育士等見学研修
- 5日(金) 保育士等見学研修
- 12日(金) 岡村 Dr.診察
- 16日(火) 施設見学
- 18日(木) 防災訓練
父母の会 Q&A
- 22日(月) 誕生会
- 25日(木) AM: 焼き芋会
PM: はな組分離



- 2日(火) 久保 AM (豊川)
清水 (市内)
- 9日(火) 増井 PM (会内)
- 16日(火) 清水 (市内)
- 17日(水) 清水 (市内)
- 25日(木) 夏目 PM (会内)
- 29日(月) 久保 PM (豊川)



外来保育

- 2日(火) PM
- 9日(火) AM
- 16日(火) PM
- 22日(月) AM



15日(月)~19日(金)
リハビリスタッフが各クラスに入ります。
通常のリハビリはありません。





今回は「手のかたち」についてお伝えします。



足には土踏まずがあるのが理想的なかたちですが、手にも理想的なかたち＝『手のアーチ』があります。これは、手を自然に置いた時に手のひらサイズのボールが手の中に納まるような丸みがあり、親指が他の指の指先と合うような形になります。また、親指の付け根には「母指球（ぼしきゅう）」、小指の付け根には「小指球（しょうしきゅう）」と呼ばれるものがあります。ここは筋肉が集まっているところなのでふくらみがあります。そして、手の中央はくぼんでいます。



つまり、親指と他の指同士が合うような手の丸み、親指と小指の付け根の筋肉の盛り上がり、中央のくぼみがあることが理想的な手のかたちとなります。手のかたちは、手のひらをつかって自分の体重を支える、感触遊びなどで手に刺激を入れる、物を操作したりすることなどによって徐々にできてきます。

お子さんのなかには指を握りこんでいたり、手のひらが平らなどかたちは様々です。

・指を握りこんでいるお子さんの場合は・・・

手の構造上、手首を下げた方が指は伸びやすくなります。指だけを単に伸ばすのではなく、親指の付け根から広げるようにして徐々に広げていきましょう。また、手のひらは手の甲よりも感覚をとらえやすいです。感触遊びなどをする時には手のひらに刺激が入るように手を広げた状態で遊ぶことができます。

・手のひらが平らな場合は・・・

手のひらが平らというのは、筋肉のふくらみがない状態です。手の中の筋肉や指を動かす筋肉が十分につかえていない場合にそのような状態となりやすいです。砂遊びで砂をかきだすような動きや、粘土をひっぱったりすること、物を握って操作したりするなかで手の筋肉を使い発達を促すことができます。

上記は一部のことで、皆があてはまるとは限りません。



お子さんの手の形を一度見てみてはいかがでしょうか。

